

# NHKスペシャル

## シリーズ 教室の“声なき声”

### 第1回 いじめと探偵 ～6,000件の“助けて”～

**2019年5月19日(日)午後9:00～9:49(総合テレビ)**

教室では口に出せない子どもたちの本音、“声なき声”に耳を傾ける2本シリーズ。第1回は、認知件数が41万件と過去最多となった「いじめ」（全国の小中高など・2017年度）について考える。

さまざまな対策にもかかわらず、未だ事態を打開できない中、いじめの実態調査の依頼が全国から殺到する場所がある。東京にある、その“探偵事務所”は、もともと浮気や企業の内偵調査を行っていたが、15年ほど前から、いじめの調査依頼が増え始め、今では専門のNPO法人を立ち上げるまでになった。学校や教育委員会に相談しても解決せず、行き場を失った子どもや親たちから、これまで実に6000件以上の相談が集まっているという。調査は実践的で、SNSの監視から、尾行・張り込み、情報公開請求など、さまざまな手段を駆使していじめの実態を探り、ケースごとに解決策を模索する。

調査から見えてくるのは、現代のいじめがいかに巧妙化し、見えにくくなっているか。そして、その異変に対応できなくなっている教育現場の姿だ。全国でも例のない“いじめ探偵”に密着し、どこにも届かない子どもたちの“助けて”を見つめていく。

### 第2回 学校へ行きたくない

～中学生 43万人の心の声～

**2019年5月30日(木)午後10:00～11:18(総合テレビ)**

シリーズ「教室の声なき声」、第2回は増え続ける「不登校」について生放送で考える。去年、教育の現場で新たな課題が表面化し、関係者に衝撃を与えた。「登校しても教室に入れない」「教室で苦痛に耐えているだけ」という、“隠れ不登校”ともいえる中学生が推計で約33万人もいることが明らかになったのだ。不登校の約10万人に加え、計43万人にも上る中学生が“学校へ行きたくない”と考えている現実。

いま、こうした声を学校への“NOサイン”だと捉え、公教育の枠組みを大きく見直す模索が広島県で始まっている。去年4月、福山市の公立中学校に「校内フリースクール」を設置。さらに、子どもたち個々の違いを尊重する教育で知られるオランダの現場を視察し、公立学校への導入を決めるなど、新たな施策を次々と打ち出している。番組では、学校現場の模索を1年間にわたり密着取材。さらに、日々子どもたちと向き合うNPOや財団法人と連携し、生放送で中学生たちの声を集めるなど双方向の演出も取り入れながら、“教室の声なき声”に耳を傾ける。

タイトルは仮です。